



平成 28 年 11 月 2 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 あ ら た
 代 表 者 代 表 取 締 役 畑 中 伸 介
 社 長 執 行 役 員
 (コード番号 2733 東証一部)
 問 合 せ 先 責 任 者 代 表 取 締 役 鈴 木 洋 一
 副 社 長 執 行 役 員
 (TEL 03-5635-2800)

平成29年 3 月期第 2 四半期（累計）業績予想と実績値との差異 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 5 月 13 日に公表いたしました、平成 29 年 3 月期第 2 四半期（累計）業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、本日開催の取締役会において平成 28 年 5 月 13 日に公表いたしました、平成 29 年 3 月期通期業績予想につきまして、最近の業績動向等を踏まえ、下記のとおり決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想と実績値との差異 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前 回 予 想 (A)	341,000	3,000	3,000	1,600	円 銭 103.78
今 回 実 績 (B)	355,644	3,703	3,910	2,433	163.81
増 減 額 (B-A)	14,644	703	910	833	—
増 減 率 (%)	4.3	23.5	30.3	52.1	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期)	339,795	2,665	2,721	1,566	101.59

平成 29 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 予 想 (A)	679,000	6,600	6,700	3,600	円 銭 233.52
今 回 修 正 (B)	690,000	7,100	7,300	3,900	262.57
増 減 額 (B-A)	11,000	500	600	300	—
増 減 率 (%)	1.6	7.6	9.0	8.3	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	676,743	5,699	5,811	3,244	210.43

2. 平成29年3月期第2四半期（累計）個別業績予想数値と実績値との差異
（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想(A)	284,000	1,900	1,100	71.35
今回実績(B)	296,034	2,731	1,705	114.79
増減額(B-A)	12,034	831	605	—
増減率(%)	4.2	43.8	55.0	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成28年3月期第2四半期)	283,105	1,691	920	59.71

平成29年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成28年4月1日～平成29年3月31日）（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
				円 銭
前回予想(A)	564,000	5,100	2,900	188.11
今回修正(B)	579,000	5,500	3,200	215.44
増減額(B-A)	15,000	400	300	—
増減率(%)	2.7	7.8	10.3	—
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	561,850	4,303	2,737	177.59

3. 修正の理由

当第2四半期連結累計期間における経営環境は、景気は緩やかな回復基調ではあるものの、円高および株安による消費マインドの足踏みや生活防衛意識の高まり等による個人消費の伸び悩みに加え、インバウンド需要にも変化が現れてくるなど、先行き不透明な状況で引き続き推移いたしました。

このような中、当社グループは中期経営計画の最終年度として、目標達成に向けた取り組みおよび将来に向けた経営基盤の改善と強化を行ってまいりました。

具体的にはあらたグループ全体の売上拡大および売上総利益率の改善、物流センターの生産性の向上や間接業務の効率改善に向けた業務軽装備化の推進による経費率の削減により収益力の向上を図りました。

また、当社グループの販売力、ネットワークを活かしたアドグッドブランドの展開強化ならびにインスタマーケティングによる店頭管理機能の強化にも取り組み、さらには、海外事業および越境ECや将来に向けた新しい事業展開をにらんだ取り組みなどを積極的に行ってまいりました。

以上のように売上総利益率の改善、物流費低減、間接部門の集約化による経費率の抑制を推進してまいりました結果、経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益が予想を大きく上回りました。

また、通期業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の実績を踏まえ、予想を修正するものであります。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上